

# 雲南ニュース

## これからもこの土地で 芦谷地区ほ場整備完了



5月26日、吉田町芦谷地区でほ場整備の竣工式が行われ、参加した県、市の担当者や地元住民らが、整備された農業環境を基にして集落を発展させていくことを誓い合いました。

「集落の発展にはほ場整備が不可欠」と、県管飯石南地区中山間地域総合整備事業 芦谷工区ほ

5月27日、旧町村にあったふるさと会を連携・統合した「雲南市東京ふるさと会」の設立総会が東京都千代田区



## 故郷は遠くにありて 東京ふるさと会を設立

のアルカディア市ヶ谷で約120人の会員の出席のもと盛大に行われました。初代会長に就任された難波明さん（三刀屋町出身）から「統合したふるさと会を徐々に大きくしていき、継続していくことが大事である。今後は東京からふるさと雲南市を支援していきたい」と頼もしい言葉をいただきました。

速水市長は、「豊かな自然環境や歴史・文化にあふれ、安全で新鮮な食材の宝庫である雲南市に、約2年半で100名の定住者を迎えたこと」などを報告し、「ふるさとへの誇りを胸に会員相互の団結を深めてほしい」と同会の発展を願いました。

この日は、会員同士の再会や旧町村の垣根を越えた新たな出会いが見られ、初会合は大盛況のうちに幕を閉じました。



難波会長

## 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 大東浄化センター完成



日本下水道事業団 島根事務所の太田秀司所長(中央)から施設の説明を受ける

設では県内で初めての「膜分離活性汚泥法」という処理方式を導入しています。膜分離装置（有機平膜ユニット）が汚水をろ過しきれいな水と汚泥に分離するもので、清澄な処理水を得ることができます。高度な水処理だけでなく、代表的な下水処理方式オキシデーションデイツチ法（OD法）と比べて省スペースであり、維持管理が容易なことも、膜分離活性汚泥法の特長です。快適で住みよい生活環境が整備され、今後処理区内の各家庭が積極的に下水道に接続することにより、大東町中心部の発展と赤川などの水質保全が図られることが期待されます。



膜ろ過ポンプ

5月28日、大東浄化センターの竣工式が行われ、参加者が下水道施設の完成を祝いました。大東町飯田内に完成した大東浄化センターは、平成12年度に旧大東町が策定した「大東町特定環境保全公共下水道事業計画」に基づき、6カ年、およそ9億円の事業費をかけて整備されました。

同施設は、公共下水道処理施

場整備事業」により、平成16年度から事業費7、865万円をかけて、3・8haの水田、0・2haの畑、2、000mの水路を整備。竣工式で芦谷工区ほ場整備事業委員会の多賀勇委員長は、「広くなった田んぼで大型の機械を使えるようになった」と小さな田んぼでの労苦を振り返りながら、「戸数も若者も少ない集落で、高齢化の問題も解決したわけではないが、この状況を前向きに捉えて、生まれ育ったこの土地でますますがんばっていく」と、決意も新たに力強くあいさつされました。

今後、農業生産基盤の向上はもとより、後継者の定住や豊かな自然環境の保全が進み、当集落がますます発展することを期待しています。



## 雲南市長の「コ・ラ・ム

「幸運なんです。雲南です。」の言葉を、3月議会で表明しました。雲南市の総力を結集し、自立した、魅力ある雲南市を創り上げていくための「雲南ブランド化プロジェクト」を進めるにあたり、まずは雲南市そのものをブランド化する言葉として掲げました。

雲南市は素晴らしい自然、多彩な歴史文化、安心安全な食材等に恵まれています。こうした素晴らしい地域資源に気付き、活かし、産業やコミュニティ活動の活性化、交流人口の拡大を図っていく「雲南ブランド化プロジェクト」について6月議会で重ねて表明しました。

今、地方は過疎、高齢化、財政問題、医師不足等様々な問題を抱えています。都会にはないものを持っているのも事実です。そして、全国各地で地域特有の資源を活かして頑張っている自治体が沢山あるのも事実です。

雲南市も負けてはいられません。せっかく誕生した新生雲南市です。知恵を出し工夫を凝らし競い合い協力し合っ

て、心底「幸運なんです。雲南です。」と

言えるように、雲南市創りに頑張ります。



記者会見にて（5月30日）